



市章

広報えびな

発行・海老名市役所・海老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代)/〒243-04

毎月1日・15日発行

世帯と人口

昭和60年4月1日現在

世帯 28,144世帯 (-52)

人口 91,403人 (-32)

男 46,880人 女 44,523人



郷土かるたを話題に親子の会話が…(かたらの広場で)

あなたの広場です

5・11 海老名中央公園全面オープン

市の表玄関にふさわしい公園として、その完成が待たれていた「海老名中央公園」が五月十一日(土)に全面オープンします。海老名駅東口前にあるこの公園の一部は、五十八年六月にオープンして市民のみさんから親しまれていますが、市では「海老名中央公園」の全面オープンを記念して五月十一日にはタイムカプセルの埋蔵を行い、また、十一・十二日の両日には「市緑化まつり」を公園内で開催します。私たちの子や孫に引きつがれていく社会的財産でもあり、今後市の顔の一部となるこの公園に、当日、家族をって足を運んでみてはいかがでしょうか。

3つの広場で構成

「海老名中央公園」は、小田急電鉄線が海老名駅前開発の一環として建設したもので、総面積七千七百二十平方、駅前側からの入口に当たる部分約五百十、奥行が二百二十五、東西に細長く、駅前側から東側に向かって順に「この広場」から「この広場」の三つの広場から構成されています。

公園の名称は、市が三年前に市民のみさんから募集し、多数の

応募の中から決定しました。この公園が市の中央部に位置し、将来公園を含む一帯が市の中心街になることから「海老名中央公園」と名付けられたものです。

かるたのベンチも

駅から公園への入口部分に当たる「この広場」は昭和五十八年八月にオープンしたもので、出入りしやすい開放的な雰囲気を持ち、滝、アコヤ貝をデザイン化した池、野外ステージなどが配置された園内最大面積(約四千平方)の広場です。

新しくオープンするのが「かたらの広場」と「この広場」です。「かたらの広場」は、中心部に「海老名市郷土かるた」のタイル焼きをはめ込んだベンチが設置された植土色豊かな広場です。「この広場」は、クスノキ、シイノキ、ケヤキなどの樹木多く植栽し、樹々の中の散歩が楽しめる静かな雰囲気を持つ広場です。

これらの広場は災害時の避難場所としての機能も果たし、遊歩道は通勤、通学、買物時の通り抜けにも適しています。この遊歩道は各広場にカラーブロックで色分けされていて、その舗装面に点字ブロックを設置したり、路面段差をなくすなど、身障者のみならずにも利用しやすい工夫されています。

このほかに、公衆電話(二か所)、照明灯(十六基)、水飲み場(二か所)などもあり、各所に植えられた約三千本の樹木はこの公園を訪れる人たちに、安らぎを与えてくれます。

いこいの広場にタイムカプセル

未来への掛け橋「タイムカプセル」が、「海老名中央公園」のオープンを記念して五月十一日、「この広場」東側の芝生に埋め込まれます。タイムカプセルは、刃四寸半の立法体で、材質はステンレス製。収容物の老朽化を防ぐ工夫がされています。タイムカプセルに入れられる資料は市勢要覧、市第二次総合計画、市予算書、広報えびななど現在の市の様子を知らせるもの、失なわれつつある過去の習慣・伝説を収録した海老名むかしはなしなどの計二十一種

八十六年後に開けられるタイムカプセル



当日は左藤市長、蛭川市議会議長らの手で生年内のコンクリート収納庫にタイムカプセルが収められ、市制百周年記念日にあたる西暦二〇七二年十一月一日に開封されますが、八十六年後の海老名の人々はこのような感慨をもつタイムカプセルを開けるのでしょうか。

ご来場を! 5月11・12日

市緑化まつり



緑は人間に安らぎを与え、住みよい環境を生みだします。市は緑豊かなまちづくりを推進し、緑化の効用を市民のみさんに理解していただくため、「緑の保全と創造」をテーマに五月十一日、十二日の二日間、海老名中央公園で「第一回海老名市緑化まつり」を開催します。

五月十一日(土)、十二日(日)午前九時~午後五時、海老名中央公園で、
☆苗木、花の種子をプレゼント
☆サツキの苗五百本と花の種子(マツバボタン、アサガオ、大輪コスモス、マリゴール)八百袋を無料配布します。配布時間は両日とも午前十時と午後一時からの二回
☆植木準備即売会
☆マツ、マキ、ケヤキなどの植木、ベゴニア、ハーブなどの草花を市価の三~五割引きで即売
☆生け垣の見本の展示と指導

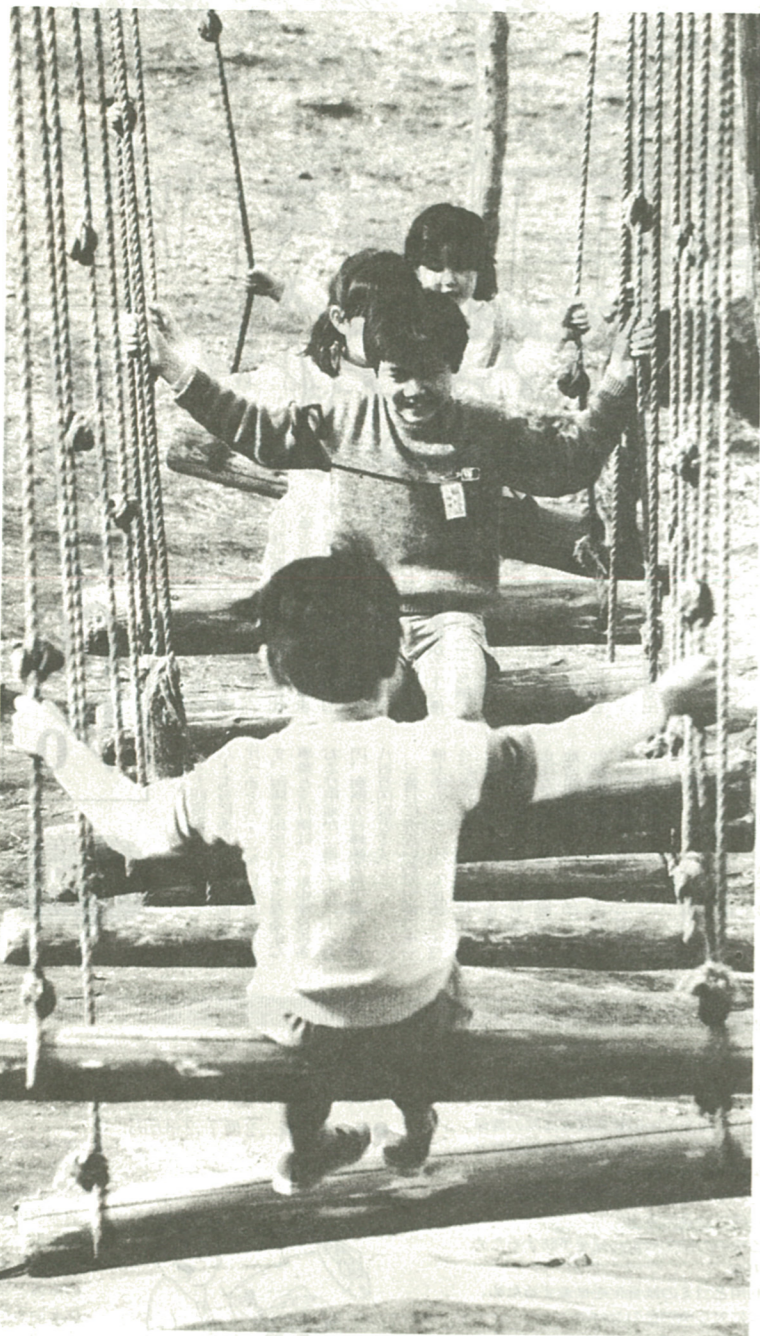
市内で生産された野菜を即売。
☆袋詰め堆肥(たいひ)を販売
☆鶏糞を原料にした一袋十五リットルの堆肥を三百五十円で。
☆その他
トマト、ナス、ピーマンなどの野菜苗の即売、サツキの展示も行います。

◎バス・電車のご利用を
当日は会場周辺の混雑が予想され、駐車場(右図)も限られた台数しか駐車できませんので、来場は徒歩またはバス、電車などをご利用ください。

▽主催「市緑化まつり実行委員会(金指保会長)」
▽問い合わせは公園緑地課(内線)へ。

財政特集

税はこう使います



昭和六十年度予算が三月定例会で可決されました。この予算総額は一般会計と四つの特別会計を合わせて二億十四億五千四百七十三万円で前年度と比べて二%の伸びとなりました。

60年度予算は総額で214億円に

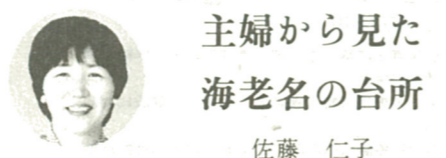
盤の整備を重点に編成された予算で、この予算は、市民本位の市政、信頼の市政、「納得と合意」の行政を基本として、①都市基盤整備の生活環境の向上②福祉の充実③産業の振興④教育文化の高揚の五つの施策を柱に執行します。

Table with 4 columns: 会計名(区分), 本年度予算額, 前年度当初予算額, 伸び率. Rows include 一般会計, 国民健康保険事業, 農業共済事業, 下水道事業, 老人保健医療事業, and 計.



次の世をになう子供たちに「ほこりうる郷土・えびな」を残します

「専らいへんで、能登半島に思っています。でも、環境が壊れてしまっています。ちょっとびびりながら、七年前横浜市から移入して来た佐藤仁子さん(11歳、開分)。



主婦から見た海老名の台所 佐藤 仁子

市税条例を一部改正

引き続き新築住宅減税などの緩和策も

三月十九日に国を地方税法の一部を改正する法律が可決成立し、四月一日から施行されました。これに伴い市では、緊急を要する市税条例の一部を改正しました。そのあらましを紹介します。

個人市民税 限度額33万円に 配偶者および被扶養者に一定以上の給与所得があった場合は、その人の控除が認められませんが、その給与所得の限度額を二十九万円から三十三万円に引き上げました。

固定資産税 1、固定資産税の緩和と本年度は三年に一度の固定資産税の再評価の年(基準年度)に当たり、評価替えが行われましたが、評価替えによる税負担の増加を緩和するため、前回と同様に負担調整措置が表②のようにならざるを得なくなりました。

市長随想 潤いも... 木は足から二転し、三月は雨の日が多く、晴れたのは五日、四月に入るとますます暑い日が増えてきました。

5月31日までミニ保有税の申告 昭和五十七年度の地方税法の一部改正(前項参照)で、次の案となる土地を所有する方は、五月三十一日まで申告納付をしてください。

市役所から 60歳以上の方に「福寿手帳」市役所老人福祉課などから配布されています。福寿手帳をもち、福寿手帳を提示してお配りしています。届いていない方は地区老人クラブ役員、民生委員に申し出るか、福祉課(内線)へ。

Table with 5 columns: 日, 会, 性, 団体・個人別, 参加資格, 締め切り日. Rows include 軟式野球, バレーボール, 卓球, 剣道, and サッカー.

情報コーナー

えびなは

特別会計

こうした仕事もします

国民健康保険は、動機先健康保険に加入している人、生活保護を受けている人などを除くすべての人が加入し、病名や負担をしたとき安心して治療を受けられるようにするための医療保険制度です。昭和六十一年三月現在の国民健康保険加入者は、一万五千二百八十八市民の四分一が加入しています。

本年度の予算総額は千億七千六百六十四万円で、前年度に比べて



て一・三%増となりました。収入では、五十九年十月から施行された高齢者医療制度の創設に伴って、療養給付費交付金受付けられたものが多くなりました。

しかし、国庫補助制度の改正も行われ、国庫支出金が前年度に比べて四・四%減少した結果、国庫から

報酬の引き上げ、退職者医療制度が平年度化されることにより、老人医療費を除く医療費が前年度に比べて二・八%増となりました。

本来ならば、保険料の引き上げが必要となるのですが、六十一年度は一般計からの繰入金を増額したうえ、財政調整基金を取りくすして前年度にある分のやりくりによって、保険料の引き上げはしないで済みました。

農業共済事業は、自然災害の多いわが国で農家のみなさんが農作物などに被害を受けるといかにため、国庫のみなさんが掛金を出し、自分たちで資金を蓄え、災害時に共済金を支払う制度です。

下水道事業は、都市の健全な発達、公衆衛生の向上を図るとともに、公共用水域の水質保全を目的として行われる事業です。

当市では昭和四十八年四月から着手された現在の第五期下水道整備五か年計画(五十六～六十年度)に合わせ

わけて、二回にわたって認可区域を拡張して、その面積は七百四十四ヘクタールとなっています。五十九年度末の整備面積は三百三十八ヘクタール、普及率は二五・六%です。全国平均は二七・七%と低く、引き続き下水道整備を強力に推進する必要があります。

本年度は国庫補助事業および市の単独事業として、国分、大谷、

老人保健医療事業

昭和五十七年八月に制定された老人保健法は、国民の老後の健康保持と適切な医療の確保を図るため、予防・治療・総合的に行う各種の保健事業を総合的に行い、これに必要な費用を国民が公平に負担することを目的として五十八年二月から実施されています。

七十歳以上の方と六十五歳から六十九歳までの障害者を持つ方を対象としています。医療給付費は、対象者が負担する一割を除いて、その全額を市が支払います。また、看護料、補装具代なども支給されます。

国分寺台、今泉、上合、上土、杉久保地区などの枝線も進行し普及率の向上を図ります。

七十歳以上の方と六十五歳から六十九歳までの障害者を持つ方を対象としています。医療給付費は、対象者が負担する一割を除いて、その全額を市が支払います。また、看護料、補装具代なども支給されます。

農林水産業費	3億7,274万円 (26.9%増)
商工費	2億7,238万円 (10.6%増)
議会費	2億2,471万円 (10.0%増)
労働費	1億2,252万円 (30.6%増)
予備費	5,000万円
諸支出金	180万円
消防費	6億52万円 (16.7%増)
公債費	11億4,603万円 (7.8%増)
衛生費	14億3,450万円 (1.2%増)
民生費	19億561万円 (5.5%増)
総務費	19億2,390万円 (3.6%減)
教育費	24億8,626万円 (45.2%減)
土木費	55億4,603万円 (44.9%増)

歳出

一般会計の歳出の大きな特色は、昭和五十年代を通じて、最大の行政課題であった義務教育施設

土木費が一位

整備が一段落しと見えます。このため、前年度まで歳出の第一位を占めてきた教育費が二十四億八千

六百二十万円で、前年度と比べて四五・二%の減となりました。

この教育費に代わって第一位となったのが土木費で五十五億四千六百三万円で前年度に比べて四四・九%の伸びとなり、市民が快適で潤いのある生活を営むための都市環境の整備をします。

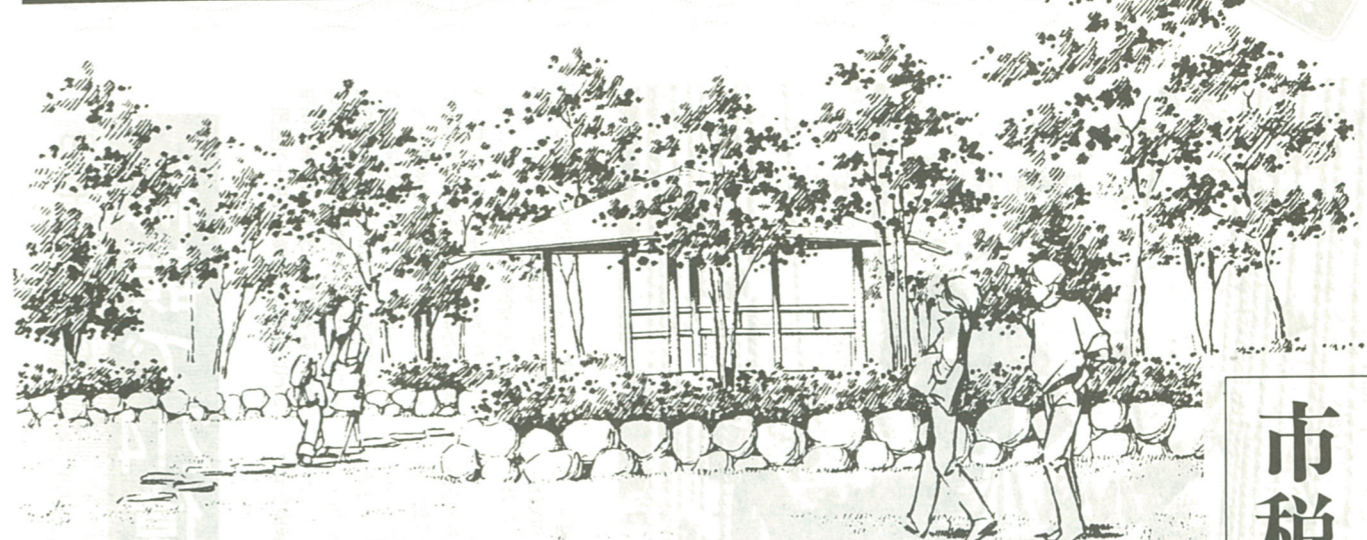
次いで大きいのが総務費の十九億二千三百九十万円(三・六%減)、民生費十億五千五百六十一万円(五・五%増)となっています。

歳出のあらまし(一般会計)

- 一般会計の主な事業は次のとおりです。
- 土木費 55億4,603万円
 - 安全性と利便性を高めるため、道路の新設・改良、維持補修工事などの実施
 - 都市計画街路の整備
 - 海老名運動公園の駐車場の整備、東柏ヶ谷近隣公園の園路広場の整備などの実施
 - 浸水など水害防止のため、都市下水路の整備、維持補修の実施
 - 教育費 24億8,626万円
 - 保護者負担の軽減を図るため、幼稚園就園奨励費などの補助
 - 大谷小学校、有馬中学校プールの老朽化のため、地上式アルミ製プールに改築
 - 学校体育施設開放の充実を図るため、今泉中学校夜間照明施設の設置
 - 図書館および教育センターの開館に伴い、図書、視聴覚備品、理科実験用備品などの購入。プラネタリウム用の星座ソフトの製作
 - 市内小中学校のうち老朽化の激しいものについて補修工事の実施

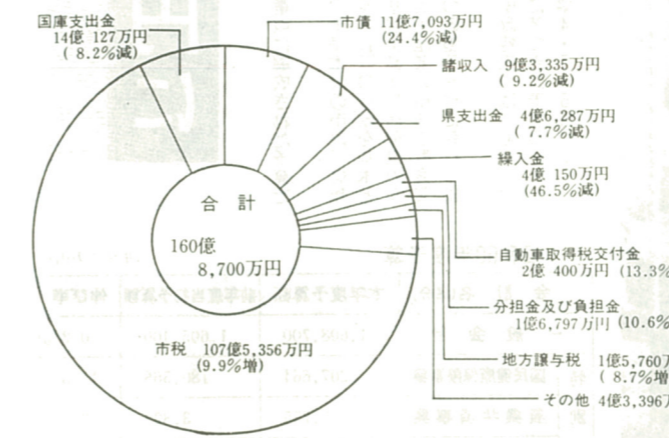
大谷線のトンネル工事進む

緑と潤いの街



市税が66%

歳入



一般会計歳入予算に占める割合の最も大きいのが市税で、百七億五千三百五十六万円で、全体の六六・八%にあたり、前年度に比べて九・九%の伸びとなります。その内訳は、個人市民税が四十一億九千八百八十八万円、対前年度伸び率七・二%増、法人市民税十六億四千七百九十一万円(二・四%増)、固定資産税が三億六千二百四十九万円(二・二%増)、その他が十億八千五百五十六万円(七%増)です。

市民一人あたりに直すと個人市民税が四万六千二百二十九円、固定資産税が三万九千七百七十七円となり、二番目に大きいのが、国庫支出金十四億一千七百七十四万円、全体の八・七%にあたり、前年度と比べると八・二%の減となります。国庫支出金の対象となる主な事業を交付金は、今泉中学校校舎、大谷用地が三億二千八百八十一万円、街路大谷線改良工事が一億八千四百九十二万円、今泉中学校校舎が一億二千四百九十二万円などです。

三番目に大きいのが市債で、一億七千九百三十三万円、全体の七・三%にあたり、前年度に比べると四・四%の減となります。市債を借りて実施する事業と借入額の主なものは、海老名運動公園用地に四億五千四百七十万円、都市計画街路整備に一億六千四百九十二万円、今泉中学校校舎に一億二千四百九十二万円などです。

- 総務費 19億2,390万円
 - 市民生活のガイドブック「暮らしの手引き」発行
 - 市民の自主的活動によるコミュニティづくりのため、60・61年度の2か年度でコミュニティセンターの建設
 - 交通安全対策として、道路反射鏡、照明灯、区画線、十字マークの設置
 - 地盤沈下対策として、水準測量調査、観測井戸解析調査の実施
- 衛生費 14億3,450万円
 - 平日夜間、休日、年末年始の救急医療体制の確保
 - 医師会の協力を得て行う休日急患診療所運営などに補助し、医療体制の確保
 - 成人病対策として、胃がん、子宮がん、肺がん、乳がん、一般健康診断の実施
 - 伝染病による疾病の発生やまん延を予防するための予防接種の実施
 - 資源の有効利用とゴミの減量化を推進するため、集団資源回収に対し奨励金の交付
- 消防費 6億52万円
 - 市内3か所に40トン水槽、1か所に100トン水槽の設置
 - 市民の防災意識の高揚を図るため、災害予防パンフレットの作成
 - 防災行政無線を市内の難聴地域に設置
 - 街路用大型消火器を避難路、密集地に設置
 - 災害時に必要な資機材を備蓄するため、防災備蓄倉庫の購入
- 農林水産業費 3億7,274万円
 - 大谷畜産環境整備組合の堆肥センター補助
 - 農業近代化資金利子補給、営農小口資金利子補給、価格安定対策などの諸事業への補助
 - 市内で生産された市内市場に出荷された生鮮野菜に

プレイ・ガイド



特別公演 松竹大歌舞伎

出演 尾上 梅幸
中村 扇雀
中村富十郎ほか
演目 勳進帳ほか

7月29日(月)午後4時開演、市文化会館。入場料は特等4,000円、1等3,000円、2等2,000円(全席指定)、団体割引あり。前売り開始は5月19日(日)午前9時から、電話予約は午後1時から。主催は海老名市・市文化会館事業協会(☎32・3231)

第5回 市の花さつき展

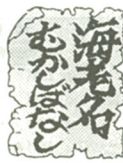
5月25・26日 市文化会館

5月25日(土)・26日(日)午前9時～午後4時、市文化会館展示室。内容はさつきの展示、栽培技術の指導、さつき苗の無料配布(両日で300本、抽選)、さつき産廉販売(市さつき研究会会員が丹精したのもの)など。主催は海老名市、市さつき研究会(☎38・4678)。

「六月十日の夕方柏ヶ谷と七ヶ谷地区に梅粒ぐらいの雪ひよつが降り、ナシや桑園、露地野菜に大きな被害をもたらした。短時間に多量の雪が降ったため、ナスやトマト、キュウリなどの露地野菜は全滅！」

これは一昨年七月農協(えびな)が報じた記事である。近年めずらしい降雪だったが、むかしは毎年のように大なり小なり雪の被害を受けたものである。

中でも明治三十年五月十五日の降雪はものすごく「前代未曽有」と先人は記録している。いづれながら茂亥(いぬい)西北に記した依知(座間)方面から辰巳(たつみ)東側(に当たる鎌倉・二浦方面)にかけて最も大量に積もるほど降った。この道すじに当たった上今泉・柏ヶ谷地区の被害は甚だ。大麦小麦は全滅、桑の葉ははずす



く、翌年の作付の種にも困る有様だった。これがためそのすじでも次のように種を給与の救済の手をさしたのであった。

高座郡指令第三〇〇号
海老名市村柏ヶ谷

電祭り

第113話

電祭りは天災であつて人力の及ぶ箇所は、食料に事欠くばかりでなかつたのである。

高座郡長山田親良 印
明治三十年八月十日

神守権左衛門
本年六月十日雪害救助ノ件
開届ケ種穀料金式式六拾銭給与ス

と云つてではない。苦しい時の神頼みばかり毎年農家で電祭りをした。国分の中・辻・谷戸・日久保・逆川・灘の下を区とする大講中では大正の初期に電祭りのようにこれを行った。



の下辺に小云巾着(きんちやく)『財布の二種』をつり下げたものである。巾着は各戸手製のもので、色とりどりであった。集金額

は、酒一升が一円もしないかつた並で、二銭か三銭であった。それを巾着に入れ順次回すのだが、地主階級の家では五銭なり十銭なりきまりより強入れて、その大講中では例年各戸の岩屋安五郎氏を宿とし、集めたまで酒さかなを求め、その家の神に御神酒(おみき)を供え雪除けの祈願をした。その後は悪魔に移動のだから、さかなは「こ豆腐」たぐわん程度の簡素なものであった。それでも結構話に花が咲いた。この行事は農家にとって一種のレクリエーションで、命の洗濯でもあった。この日農作業はもうん休むとしたので「骨休め正月」といって雇人が一番喜んだのであつた。

この風習は大正七八年ごろまで続いていたと思つた。
(国分の畑田武治氏寄稿)



桜の下を散策(清水寺公園で)

フットパス

春の訪れを満喫 寝たきり老人巡回サービス

寝たきりのお年寄りに、市内の桜を觀賞してもらう市内巡回サービスが四月十一日に行われた。現在市内には約百人の寝たきりのお年寄りがいるが、市ではこれらの方々を対象に、変化する海老名の姿を知ってもらうため昭和五十七年から巡回サービスを続けて

市内をパレード 春の全国交通安全運動

春の全国交通安全運動が始まった四月六日、海老名、座間両市で交通安全パレードが行われた。去年、市内の交通事故死者数は十五人にのぼり、人口十万人以下の都市ワーストワーンになってしまった。そのため、市と座間警察署では、横断歩道の立上り方を強化するなど交通事故防止に努めている。当日は、歌手の藤山一郎氏もパ



海老名駅前ではチラシを配布

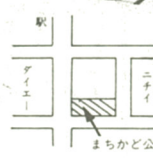
レードに参加。白バイやバイクを先頭に、交通安全協会など各種団体約六十人が大型バイク、オートブリーカーなどに分乗し、藤山氏が歌う「交通安全の歌」を流しながら市内を巡回した。また海老名駅前では、風船、チラシなどを配布。参加者の一人は「今年の交通事故死者は二人四月十日現在、去年の同時期に比べる五人減つてはいるが、悲惨な交通事故はもうたくさん」と語っていた。

待合にどうぞ 国分に「まちかど公園」

四月十五日、国分関係番号の一角(図)に小さけれどちょっとしゃれた公園がオープンした。ちょうど街角にあるころから「まちかど公園」と響きの良い名が付けられている。



同公園は買物客が散歩する人の休憩所、待合場として市で遊休地を活用してつくったもの。レンガ



色のコンクリートブロックが敷きつめられ、クスノキを六角形に囲んだベンチが二か所、西もたれベンチが二か所配置された。また半永久的に動く太陽電池付時計もある。これは、太陽の光を蓄えて動くもの。アンテナが付いて、午前七時と午後七時の二回、NHKの時報をキャッチして自動的に時刻を合わせる機能も持っている。

公園の面積は二百五十九平方メートル、整備費は約六百八十五万円。

進歩めざましく CSR美術クラブ作品展

身体障害者やボランティアなどからなる「CSR美術クラブ」(浅岡タケ子代表、会員13人)の作品展が、四月十日から十四日まで二階層ホールで開かれた。



習作三十八点を展示

身体障害者やボランティアなどからなる「CSR美術クラブ」(浅岡タケ子代表、会員13人)の作品展が、四月十日から十四日まで二階層ホールで開かれた。連絡は事務局宇井さん(☎31・九四八六)へ。

同クラブは、三年前から月一回市立総合福祉会館で勉強会を開いている。今回の展示は、その成果を発表すると共に、CSRの活動を理解してもらうのがねらい。作品は油絵ばかり三十八点で自画像や静物画が多い。

綾瀬市から参加している山田幸子さんは下肢障害で車イスの生活をしている。同クラブに入るまで筆を握ったことがない。指導者の伊勢原市の画家、外岡慧子さんは山田さんのの一、二年間の進歩は著しく、今出品された二ツ身はびっくりな出来です」と話していた。

同クラブは、またたくの初心者ばかりの集まりで、障害者の方、また油絵を勉強してないという方の参加を求めている。